

孤児の地政学

『ハックルベリー・フィンの冒険』の南と西

細野香里

『ハックルベリー・フィンの冒険』(1885)の主人公ハックの人種的属性について、S・F・フィッシュキンは“Was Huck Black?”と問うた。この問いは、トウェイン研究者たちに、ハックの人種的属性を巡る解釈可能性の幅へ目を向けさせた。コミュニティから逸脱し出自の曖昧なハックは、一応は白人とされるものの、人種的他者との親和性を帯びた存在である。こうしたハックの属性の曖昧性・多層性は、作品舞台の曖昧性・多層性と呼応している。南北戦争以前のアメリカでは、南と北、あるいは南と西という区分は極めて流動的であり、若き合衆国の地理的見取り図は未だ混沌としていた。そして作品舞台セント・ピーターズバーグのモデルとなったトウェインの故郷ミズーリ州ハンニバルは、南北戦争時には奴隷制を維持しながら北部連合国側についた境界州として、イデオロギー的に引き裂かれていた。さらに作家としてのトウェイン自身の評価についても、この曖昧性について回る。ネヴァダ・カリフォルニア準州の新聞記者時代にユーモリストとして名声を得たために、奴隷制のもたらす悲劇を描いた1894年の作品『間抜けのウィルソン』の書評においてでさえ、彼は西部出身の作家として紹介されている。一方で、『ハック・フィン』を通じて南部奴隷制を巡る思索を深めたトウェインは、W・D・ハウエルズによって“the most desouthernized Southerner I ever knew”と評価されている。本発表では、これらの『ハック・フィン』における人種的・地理的曖昧性と、作家マーク・トウェイン自身が帯びる曖昧性が、作中でいかに互いに呼応し合い、独特の力学を生み出しているかを吟味した。ハックの多人種性と、作品舞台の地理的流動性を重ね合わせて論じることで、『ハック・フィン』は西の物語なのか、南の物語なのかという疑問への応答として、自身も西部作家とも南部作家とも評価されてきたトウェインが、南と西の区別の曖昧さを意図的に演出していた可能性を検討した。

1. ハックの人種的帰属の曖昧性

小説作品でのハックは社会的、あるいは血縁によるつながりを持たない存在として描かれている。このハックの血縁の断絶は、彼の出自の解釈可能性を大きく広げてきた。フィッシュキンは、前掲 *Was Huck Black?* において、ハックのモデルが黒人少年であった可能性と、ハックの語りが黒人英語の話し言葉に極めて類似していることを指摘する。以後、ハックを人種的他者として解釈する可能性が検討されてきた。イグネイチェフとドーソンは、ハックのファミリーネーム、Finn から、彼の父方の血筋はスコットランド・アイルランド系のものであったと論じる。カルターは、物語の舞台となる1840年前後のミズーリにおける人種混雑の歴史的背景から、ハックの母方の血筋がネイティブ・アメリカン由来のものであった可能性を指摘し“was Huck Métis?”と問いかける。ここで重要なのは、トウェインはハックの出自について異人種との関わりを想起させる余地を残していた、という点だ。白人の浮浪児として、奴隷社会の境界に生き、コミュニティから逸脱し出自の曖昧なハックは、複数の異なる人種との親和性を持つ。これはハックが白人以外の人種的属性を持つと主張することと同義ではない。ハックは白人コミュニティからの逸脱者でありながら白人としてのアイデンティティを確かに持っており、だからこそ逃亡奴隷ジムを手助けすることに葛藤を覚える。けれどもその葛藤を押さえつけてジムを庇う決心を下すことができたのは、彼がある種の多人種性、越境性を有していたからに他ならない。ここで重要なのは、ハックはこの人種的帰属の曖昧さを時に能動的に利用している、という点である。第24章で、恥ずかしげもなく平然と人々をだます王様と公爵を前に、ハックは「もしこんなことに出くわすんだったら、俺はくろんぼにでもなる」と述べる。クーロンは、このハックの言葉について、「無造作にはあるものの、自身を黒人と重ね合わせることで、白人である王様と公爵からの決別を図っている」と指摘する。この解釈はハックが道義心のもたらす葛藤から逃れるために、自身の人種的属性を概念上自由に変えて見せている可能性を指摘しているという点で、非常に示唆的である。ハックは、いかに自身の内的葛藤に折り合いをつけるかという問題に直面したときに、それを解決する手段として無造作に人種的アイデンティティを変えてしまうのだ。

2. トウェインによる人種的／地理的帰属のすり替え

自身の葛藤を解消するために人種的他者に自己を投影するというやり方は、トウェイン自身が実際に行っていた。作家としてのキャリアを始めた1860年代から、ネイティブ・アメリカンと自己を重ね合わせるようなレトリックを用い、西部出身作家としてのキャリアを重ねるにおいて利用し続けた。このネイティブ・アメリカンという仮面は、単に西部という地理的記号を付与してくれる道具にとどまらない。1881年12月22日、フィラデルフィアのニューイングランド協会の晩餐会で行ったスピーチ「プリマス・ロックとピルグリム達」

にて、トウェインは西部境界州で生まれ育った自身の祖先はインディアンであったと述べ、ピルグリム達によって虐げられた人々、つまりはクエーカー教徒、ロジャー・ウィリアムズ、セイレムの魔女たち、アフリカからジェームズタウンに最初に連れてこられた奴隷たちもまた自分の先祖であるとして、ピルグリムの末裔たちに反省を迫る。さらに、ニューイングランドに焦点を絞った歴史観から逸脱し、最初の黒人奴隷たちから“自分の代”に至るまでの奴隷制の罪深い有り様に言及する。このようにトウェインはネイティブ・アメリカン、あるいは黒人奴隷の末裔であるという偽りの出自を語ることで、他者への迫害行為を巡る道義的葛藤から逃れるために人種的他人を装うというレトリックをすでに自ら試みていたのだ。

3. 『ハックルベリー・フィンの冒険』における円環構造と歪んだ地理

以上を踏まえ、『ハック・フィン』の作品世界における、南部奴隷社会の共同体に一応は属しながら西部を舞台に想像されたハックの物語、そして奴隷制から逃れるために南へ川を下るジムの逃亡譚としての地理的歪みについて検討する。ミラーは、作品後半部でハックらが訪れるフェルプス農場は、トウェインが示唆しているアーカンソー州よりも南、ルイジアナ州かミシシッピ州に位置するはずであると指摘する。これを踏まえカミングスは、南部と奴隷制の問題からの「逃避 (evasion)」欲求のために、トウェインはこのような地理上の修正を施したと主張する。こうした南北の歪み、あるいはセント・ピーターズバーグの町が南と西双方の属性を持つが故に生じる曖昧さは、『ハック・フィン』の物語構造自体に歪みを生じさせている。そもそも『ハック・フィン』は円環構造を持つ物語であり、この堂々巡りの構造はトウェインの、人種を巡る価値観の決意表明を棚上げにしたいという姿勢の反映とも考えられる。けれども、語り手ハックは、堂々巡りの円環状の動きをすることで現状から目を逸らしているようで、かえって自らが逃れようとしているものの懐に飛び込んで行ってしまう。川の流れに乗って前進することが、未来に進むことを比喩的に示すのではなく、否応なしに南へと流され、過去を振り返ることを示唆するのならば、トウェインの文学的想像力の中でのハックとジムの筏の旅は、物理的には前進しながら、意識の上では過去へと遡っていることになる。加えて南の物語でもあり、西の物語でもある、という南と西の曖昧さもまた、『ハック・フィン』における円環構造を歪めている。奴隷制を保持した地域を南部というのならば、西部開拓に伴い奴隷のいる南部地域は西へ拡大し、かつて開拓地と言われていた土地が南部に組み込まれ、「西部」は「南部」へと変容した。そして、西部拡大に伴い、準州を州に昇格させるにおいて、その地を自由州とするか奴隷州とするかという葛藤が生じ、この混迷が南北戦争への道筋となった。つまり「テリトリーにとんずら」するハックは、逃れようとした葛藤の渦の中に自ら飛び込んでいったことになるのである。トウェインは自身の分身ともいえる帰属の曖昧な孤児ハックを語り手として、南北の位置関係が恣意的に歪められ、南と西の違いがぼかされた物語世界を構築し、南部奴隷社会に対する消極的逃避を試みた。けれども、トウェインは、川の流れが北から南へと向かうのを変えられないように、過去から逃れようとしても向き合わざるを得ないこと、あるいは西へ向かって出奔することに過去からの解放を見出そうとしても、その行為自体が奴隷制を巡る葛藤を新天地にまで伴い、南北戦争勃発を導く大きな流れの中の一筋の動きに他ならなかったことに、『ハック・フィン』執筆時には気づいていたのである。

Selected Bibliography

Coulombe, Joseph L. *Mark Twain and the West*. U of Missouri P, 2003.

Cummings, Sherwood. "Mark Twain's Moveable Farm and the Evasion." *American Literature*, vol. 63, no. 3, 1991, pp. 440-58.

Dawson, Hugh J. "The Ethnicity of Huck Finn and the Difference It Makes." *American Literary Realism*, vol. 30, no. 2, 1998, pp. 1-16.

Fishkin, Shelley F. *Was Huck Black?: Mark Twain and African American Voices*. Oxford UP, 1993.

Howells, William Dean. *My Mark Twain: Reminiscences and Criticisms*. 1910. Louisiana State UP, 1967.

Ignatiev, Noel. *How the Irish Became White*. Routledge, 1995.

Kalter, Susan. "A Savagist Abroad: Anti-Colonial Theory and the Quiet Violence in Twain's Western Oeuvre." *Texas Studies in Literature and Language*, vol. 53, no. 1, 2011, pp. 26-113.

Miller, Michael G. "Geography and Structure in *Huckleberry Finn*." *Studies in the Novel*, vol. 12, no. 3, 1980, pp. 192-209.

Twain, Mark. *Adventures of Huckleberry Finn*. 1885. Edited by Victor Fischer, Lin Salamo and Walter Blair. U of California P, 2003.

---. "Plymouth Rock and the Pilgrims." 1881. *Mark Twain: Collected Tales, Sketches, Speeches, and Essays 1852-1890*, edited by Lewis J. Budd, The Library of America, 1992, pp. 781-85.